

2月22日（金） 2階C室 9：00～9：40

1 単元名 声に出して読もう～これはどう読む？～『ニャーゴ』

2 単元について

単元	○人物の行動に着目して、場面のようにすを読み取る。
目標	○場面のようすを想像し、考えたことや感じたことを生かして、音読する。

音読の大好きな子どもたちである。一人読みでは日頃から、家庭で行う音読・「音読名人」への挑戦・「えらぶ」の時間での詩の暗誦などに取り組み、声に出して読む楽しさを味わっている。またクラスでは、ことば遊び歌や詩、教材文などを、声を合わせて読む、グループごとにつけ合いにして読む、リズムやことばの響きを生かして読む、役割読み、1文交代での「。」読みなど、さまざまな読み方を工夫して、みんなといっしょだからこそ味わえる音読の楽しさを存分に経験している。

これらの経験を踏まえて、本単元では、物語文を、場面のようすや人物の気持ちを読み取り、そのうえで、読んで考えたり想像したりしたことを生かして音読させたいと考えた。取り上げた教材文「ニャーゴ」は、初めて出会った猫にその恐ろしさを知らずに無邪気に親切に接している子ねずみたちと、彼らを狙っていた猫との会話のおもしろさや、戸惑う猫のようす、そして意外な展開に、子どもたちも楽しんで読み味わうことができる作品である。授業では、五つに分けた場面ごとに、場所や人物の行動を、叙述に沿って丁寧に読みながら、場面や人物の気持ちを吹き出しで書き込むなどして想像を広げる。挿し絵も大事な手がかりになるであろう。授業の終わりには、読み取ったことを生かして、その場면을音読する。このまとめの音読では、読み取ったことをどのように表すか子どもによってさまざまな違いがあると予想されるが、自分たちなりにふさわしい読み方を工夫する姿を大切にしたいと考えている。単元の最後には、物語の中からお気に入りの場面を選んで音読発表会を行う。そこでは、友だちの読み方を聴き合うことを大切にして、読み方の違いを感じ、「そんな読み方もあるよね」と気づく場にしたいと考えている。「ここはこう読むべき」という共通のゴールを設定するのではなく、読み取ったことをもとに声に出して読む楽しさを感じ、よりふさわしい読み方を模索する姿を作り出したい。

3 学習指導計画（7時間目／全11時間）

- (1) 全文を読んで感想を伝え合い、学習の見通しを立てる。 (2時間)
- (2) 人物や場所を手がかりに、物語を五つの場面に分ける。 (1時間)
- (3) 場面ごとに、場所や人物の行動・気持ちを、叙述をもとに読み取り、ようすや気持ちを想像して音読する。 (本時4／5時間)
- (4) グループごとにお気に入りの場面を選んで、絵を描き、その場面の音読の練習をする。 (2時間)
- (5) 音読発表会を行い、感想を交流し合う。 (1時間)

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

四場面のねこと子ねずみたちの行動や気持ちを、叙述をもとに読み取り、それを生かして音読する。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 一場面から三場면을音読する。	○前時までの学習を生かして音読するようにする。
2 四場면을音読し、ねこと子ねずみたちの行動や気持ちを読み取る。	○次のことばを言った時のそれぞれの気持ちを考える。 ・ねこの「ニャーゴ」、子ねずみの「ニャーゴ」 ・ねこの「おれのうちには、子どもがいる。」「うん。」
3 読み取ったことを生かして、音読する。	○それぞれのことばの内側にある気持ちを想像しながら、ふさわしい読み方を工夫する。
4 学習感想を書く。	